

試験管を入れれば生花も飾れる置き花入れ。編み途中で、90度に切り返すだけでボトルショルダー部を表現できるのは「面」で作っていく、白樺樹皮クラフトならではの表現方法といえます。ダイニングテーブル、サイドボードそして和室にもフィットするデザインでとても絵になるので、養成講座修了者を中心に早い段階で制作される方が多い作品です。一般ワークショップでは「中級3コース」にあたります。

【完成サイズ】: 約80×80×H140mm  
 【面取り作業】: 必須  
 【なめし作業】: 必須  
 【制作時間】: 約3時間  
 【動画視聴】: あり



### 【スペック】

□ベルト(W20×L1000mm×4本、W20×L450mm×8本)  
 □予備ベルト  
 □レシピ(本紙)

### 【必要な工具】

<必須工具>  
 □ラスタ □木製ピンチ □ハサミ □定規 □鉛筆  
 □なめし道具(オリーブオイル、タオル、小皿)

### <状況により必要となる工具>

□カッター □輪ゴム  
 □ボンド(セメダイン社スーパーXゴールド(XG)<推奨>)

### 【動画視聴方法】

YouTubeを視聴できる最新のブラウザ、オペレーティングシステム、良好なインターネット接続が必要です。PC操作方法や動画操作手順はサポート外ですので、お身内やご友人などお分かりになる方にお聞きください。  
 ※最新バージョンの Google Chrome、Firefox、MS Edge、Safari、Opera  
 ※500 Kbps 以上のインターネット接続システム要件

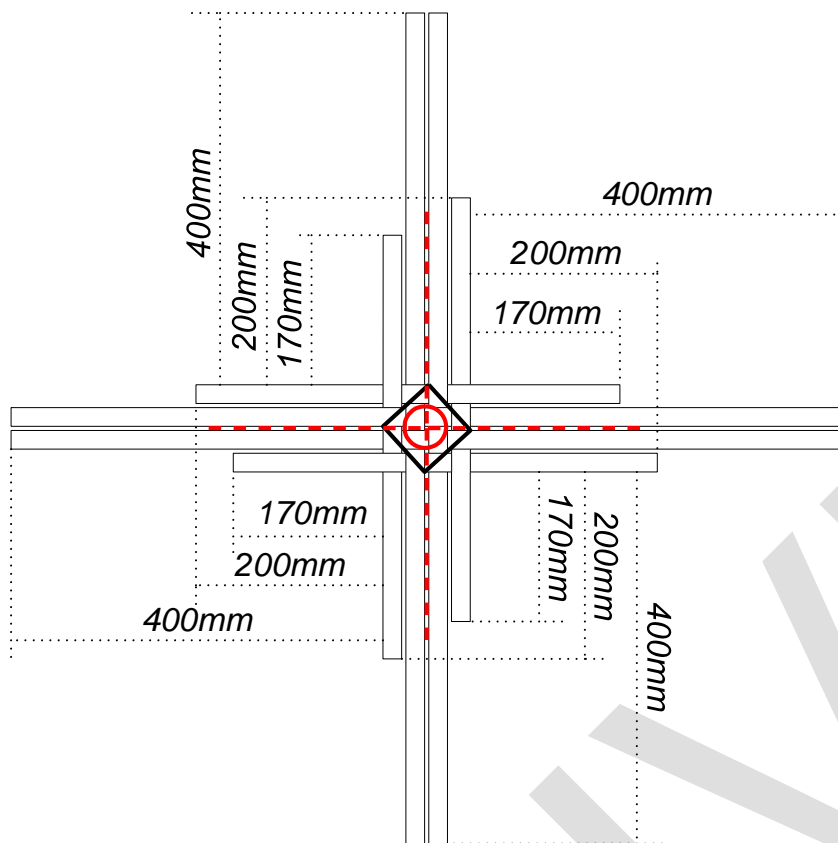


タブレットやノート PC などの環境で閲覧いただくのが一番オススメですが、それほど古くない普通のスマホ(らくらくフォンなど制限のあるものは除く)をお持ちであればほとんど問題ないと思われます。ただ画面が小さいのでわかりにくい箇所もあるかもしれません。  
 ※動画 URL を一般に公開することを固く禁じます。  
 ※休会・退会された場合は、視聴することができなくなります。

### 【制作前に一読ください】

- 本紙を参照しつつ、**動画解説に主軸を置いて進めていきます。**  
 また、講座修了者を対象としているので、基本的な工程は解説を省略していることがあります。
- 制作前には、「**スペック**」や「**必要な工具**」が揃っているか確認ください。
- 本作品は、「**かご型**」に属します。  
 以下に大別される手順にしたがって作業を進め、完成を目指しましょう！  
**「井桁状に並べる ⇒ 編み上げる ⇒ フチで折り返す ⇒ 始末する」**

## 1. 井桁状に並べる



図①

1-1. 外皮側(赤印)に鉛筆で中央に印をつけ、長いベルト順に図①のように井桁状に並べ、すき間を寄せます。

※W20×L450mmのうち、4本は折り返し処理時に使用

1-2. 図①の太線に沿って定規をあて、手前に折り曲げます。

## 2. 編み上げる

2-1. いずれかの角より、外皮側を見ながら編み始めます。

2-2. 1角終わったら、1マスが正方形になるようにすき間を寄せて、2角目を編み進めます。

2-3. 以降、同じ作業を繰り返して、ゆがみなく立ち上げます。

2-4. 1マスの対角線を「1」とすると、一輪挿しの4角(側面)から「3」つ目の高さで、動画解説のように急激に90度折り返し、片側のベルトを内側に差し込み、その上から一直線状に被せるように反対側の側面下方向のすき間に2マス差し込みます。内側に差し込んだベルトは特に処理は行いません。

2-5. 上部に残ったベルトを井桁状に整え直して、編み上げていくことで自然とボトル口ができます。

## 3. フチで折り返す

3-1. 1マスの対角線を「1」とするとボトル口の狭まったところから数えて「1」の高さで外周に鉛筆で線を書き入れます。

3-2. 鉛筆で線を描いたベルトを1本、鉛筆で線を付けたマスまでほどき、線通りに折り曲げ、側面のすき間に1マスだけ差し込み、同じ作業を1周行います。

3-3. 未処理の残り半分のベルトを1本ずつフチで折り返し、2マスまで差し進めます。

3-5. 動画解説の通りに、ベルトを差し進めていきます。

ボトルの肩部分は、残りのベルト(W20×L450mm×4本)で内皮に置き換えていきます。

## 4. 始末する

4-1. 底部に向かって、4つ角を通過する8本のベルトを差し進めていき始末します。  
※ベルトの長さが足りない部分は予備ベルトで外皮面が隠れるように足します。

4-2. 動画解説通りに出会うベルトを始末して完成!